

A 4 7 / 1 9

地域の歴史文化の継承

— フィールドワークを中心として門田文化を学ぶ —

野村 泰介 (山陽女子中学校・高等学校)

1. はじめに

学校法人山陽学園は、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学を有する総合学園である。その中で山陽女子中学校・高等学校は1886年創立の山陽英和女学校を母体とした現在の岡山市中区門田屋敷で女子教育を行っている。現在、中学校では「特別進学コース」「総合コース」の2コース、高等学校では普通科「スーパー特別進学コース」「特別進学コース」「アクティブイングリッシュコース」、「総合進学コース」、音楽科（2011年度より普通科「music コース」に改組）の2科4コースで構成されている。山陽学園の125年にわたる歴史の中で、石井十次の設立した岡山孤児院、日本にエスペラントや卓球を伝えたE. ガントレットゆかりの地など、門田屋敷周辺の歴史文化遺産の存在を見逃すことはできない。門田文化の歴史は山陽学園の歴史でもある。

しかし、現在の門田屋敷周辺は閑静な住宅地であり、当時をしのぶ遺物も少ない。このたび、「総合的な学習の時間」を利用することによって、生徒たちに学校周辺の歴史文化を学習させ、これらの成果を「歴史散歩マップ」やホームページにまとめることを企画した。そして、地域への還元を図り、門田文化を岡山の観光スポットのひとつとするための紹介活動を、地域の大学や企業、行政などと積極的に連携して行うことを計画した。本論では、地域の歴史文化の継承というテーマを「総合的な学習の時間」に取り入れると同時に、地域と学校の協同活動実践の記録を中心に記述していく。

2. 今までの取り組み

本校では入学時に「総合的な学習の時間」の一環として、学園の建学の精神と歴史をとりあげているが、「学園史」などをテキストとして行う座学が中心であった。しかし、その教授法は教師から生徒へ知識を伝達するという一方的な形態が主であり、生徒たちが関心を持って取り組んでいるとは言いがたい状況が続いていた。一方、委員会活動や部活動単位で、学園草創期の歴史と共に育った門田



図1 2010年5月に実施したフィールドワーク

屋敷の文化にスポットをあてるために、これらの人物・史跡を「門田文化」と呼び、その文化レベルの高さを外へ発信する活動を行っている。古くは1980年代に当時の社会科の教員が中心となって、部活動のひとつである「地理歴史研究部」が学校周辺の歴史文化の調査・報告を行っている。^{註1} また、2007年には図書委員会が中心となり、学校周辺半径1キロの歴史史跡を紹介する地図「門田かいわい史跡マップ」を作成した。

3. 2010年度「総合的な学習の時間」の実施から気づいた課題

高等学校において2012年度から教科・科目で新学習指導要領が実施される。これに先立ち2010年度より新しい指導要領で「総合的な学習の時間」が実施される。本校では地域の歴史文化の継承というテーマで、新学習指導要領「総合的な学習の時間」の目標とする「探求的な学習」を深める計画を立てた。その中で、高校一年生の目標を「本校の女子教育の歴史や地域との関わりを学び、女性としての使命や文化的な教養を養う」とした。

計画に基づき、2010年5月、以前に図書委員会が作成した「門田かいわい史跡マップ」を利用し、周辺散策を行った。散策に設定した時間は50分であった。史跡マップは半径1キロ圏内の史跡を紹介しているため、50分という時間ではすべてを網羅することができない。そのため、担当教員による、地図上のどのポイントを中心に散策するかという下準備に時間がかかった。

このとき気づいた課題は、教材として1校時50分で完結するマップの必要性であった。「総合的な学習の時間」は科目横断的に多くの教員が継続的に携わる。そのため、使用教材はできるだけシンプルなものが望ましい。そこで次年度以降の「総合的な学習の時間」のための新しい教材作りを計画した。

4. 門田かいわい歴史散歩プロジェクト

i プロジェクトの性質

2010年10月、「総合的な学習の時間」の新しい教材作りとその研究のため、「門田かいわい歴史散歩プロジェクト」を発足させた。会の性質は1. 教員・生徒有志・地域による任意団体、2. 作成した教材は地域に還元する、という2点を念頭に置いた。1について、新しい実践の研究のため、教員と、それに賛同する地域の方、街づくりや歴史に興味を持つ生徒有志数人による任意団体とした。生徒は学校新聞を作成する「編集部」が中心となった。2について、作成した教材は、「総合的な学習の時間」に使うだけでなく、広く一般に公開し、地域に還元できることを念頭において計画した。具体的には、50分で歩ける「門田かいわい歴史散歩マップ」作りとその解説ホームページの開設である。

ii プロジェクト準備

プロジェクト発足の前に、先行実践例の調査視察として5月に東京で行われた「観光地域づくり人材シンポジウム」^{註2}、7月に岡山市犬島で行われた「瀬戸内国際芸術祭」^{註3}に参加した。また、地域の企業・郷土史研究者・町内会などにプロジェクトの説明を行い、協力を呼びかけた。9月より、生徒の活動が始まった。「歴史散歩マップ」とホームページの作成を最終目標に、聞き取り調査、関係者への協力の呼びかけ、イラスト作成、ホームページ編集などのグループに分かれた。

iii プロジェクト発足

2010年10月、山陽女子中学校・高等学校長、山陽学園大学教授、企業経営者、社会福祉団体理事長、地元町内会、地元神社神主などを賛同者として「門田かいわい歴史散歩プロジェクト」が発足した。プロジェクトの序文として以下の文章を作成し、マスコミに発表すると同時にプロジェクト準備ブログ^{註4}に掲載した。

山陽女子高校では学校周辺の歴史文化を紹介し、多くの人に訪れてもらうことを目的に、下記の

通り生徒有志と教員で「門田屋敷歴史散歩プロジェクト」を立ち上げることになりました。

「門田屋敷歴史散歩マップ」製作・配布を中心として、地域の歴史を広めるという観点で地域を活性化していこうと考えています。

門田屋敷周辺は、明治期より、石井十次の設立した岡山孤児院、日本にエスプレントや卓球を伝えたE.ガントレットゆかりの地など、歴史文化遺産が数多く残されています。

しかし、現在の門田屋敷周辺は閑静な住宅地であり、当時をしのぶ遺物も少なく、その貴重な遺産は歴史の中へ埋もれています。この現状から、「歴史散歩」を企画することにより、門田地域に多くの人に訪れていただき、岡山近代文化発祥の優れた歴史遺産を知ってもらう目的で当該プロジェクトをはじめました。

iv マップ作成



図2 大学図書館での史料調査

新しいマップは「門田かいわい歴史散歩マップ」というタイトルでB4判両面カラー印刷で作成することにした。マップ作成にあたり、1. コース選定、2. 解説文作り、3. デザインを同時進行で行った。

1のコース選定について、5月の授業実践における反省を元に、従来の地図のポイントの一部削り、50分で歩けるコースを作った。検討の結果、山陽女子中学校・高等学校から半径250メートルの中にある16箇所^{注5}とした。

2の解説文作りについて、マップの裏面に紹介する16箇所のポイント解説を掲載することにした。解説文作成にあたり、山陽学園大学図書館の学園資料室を何度も訪問し、貴重な写真や文献などの調査を行った。また、マップに掲載するには紙面が限られるため、多くの写真史料を入れた詳しいホームページを開設することにした。

3のデザインについて、マップは手書きで書いたものをパソコンに取り込むことにより作成した。担当した生徒は、デザインにあたり、岡山県内各地の観光案内や観光マップを取り寄せ、参考にした。マップには16箇所の紹介イラストを入れた。現存しない施設^{注6}については、昔の写真を見て想像図を描いた。まずラフスケッチを描いた後、手書きで書いたイラストをスキャナでデジタル化し、パソコンで編集した。

ホームページは2010年12月末、マップは2011年1月に完成した。完成後、自治体や地域の企業にマップ配布依頼を行った。

5. 地域への発信

2011年2月6日、「門田かいわい歴史散歩マップ」完成披露イベントを行った。イベントは、岡山電気軌道株式会社^{注7}（以下岡電と略す）東山線岡山駅前電停で行われた。このイ



図3 完成した「門田かいわい歴史散歩マップ」



図4「門田かいわいイラスト電車」出発式の様子

メントに伴い、プロジェクト賛同者のひとつである岡電のご好意により、路面電車1両貸し切った「門田かいわいイラスト」電車を運行することになった。当日は、岡電社長、地元町内会長、岡山市役所幹部など多数の来賓を迎え、マップの完成披露とイラスト電車の出発式を盛大に行った。この日以降、岡電路面電車内、郵便局、スーパーなどでマップの配布を行っている。

6. 実践の成果と今後の課題

今回のプロジェクトでは、「総合的な学習の時間」に使用するための教材作成がきっかけであった。このプロジェクトに参加した生徒は、地域の歴史文化の継承活動を進めているうちに、行政や企業、そして地域の人たちと接し、学校の授業だけでは得られない貴重な体験をすることができた。また、活動の過程は多くの地元マスコミの取材^{注8}を受け、反響の大きさを実感することができた。このことから、自信を持って今回の研究成果を2011年度以降の「総合的な学習の時間」の教材として使用できると確信している。

さて、2010年度の研究では、マップを中心とする教材作りで一応の完結をみた。次年度への課題として、1. このマップをどのように利用し、学習活動に活かすか、2. このマップを地域との関係にどう使っていくのか、という2点があげられる。1について、「総合的な学習の時間」が求めている「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育成」する目標を達成するためのマップを組み込んだ授業計画を立案する必要がある。2について、マップの中の16箇所の中には遺構が現存しないポイントもあり、マップを片手に散策した場合、そのポイントが確認しにくいという難点がある。2011年度以降、ポイントの地権者の承諾が得られた箇所から順番に「歴史散策ポイント」の説明案内板を設置する活動を、行政や地域と協同で継続して行っていきたい。

注1 1982年2月、山陽女子高等学校地理歴史研究部の部誌『どんぐりNo.36』において、1981年度文化祭に出展した研究展示「学校周辺の史跡」を報告書形式でまとめている。

注2 2010年5月21日、観光庁主催。地域相互の更なる連携を目指すために、持続可能な観光地域づくりを担う人材の育成と体制づくり」をテーマに全国各地で活躍する方々の先進事例が紹介された。

注3 2010年7月19日～10月31日まで、香川県・岡山県の瀬戸内海に点在する島を会場に行われた。

注4 URL <http://kadotasanpo.jugem.jp/>

注5 16箇所は1. 東湖園、2. 岡山東山郵便局、3. 山陽女子中学・高校、4. 異人館・薇陽学院跡、5. 玉井宮東照宮、6. 大福寺、7. 大西操山碑、8. 旧山陽高女跡地、9. お鮮の墓、10. 水はまり地藏、11. 徳富蘇峰植樹の碑、12. 旧上代淑邸跡、13. 操山寮跡、14. 三友寺・ピンポン伝来の碑、15. 石井十次像、16. 旭東日曜学校跡である。

注6 注5の16箇所のうち、4、8、12、13、16の5箇所については現存しない。

注7 1910年創立。岡山市内を中心に路面電車2系統、バス約100系統運行している。

注8 〈新聞〉2010年12月16日『山陽新聞』「文化スポット知って」
2011年1月26日『山陽新聞』「新「郵便印」登場します」
2011年2月2日『山陽新聞』「風景印」山部さん（山陽女子高）デザイン」
2011年2月7日『岡山日日新聞』「路面電車で歴史散歩」
2011年2月18日『山陽新聞』
〈テレビ〉2011年2月6日 岡山放送「OHK スーパーニュース」
2011年2月16日 oni ビジョン「ニュースわいど」